



Show Rotary Cares
ロータリーの心を

あなたの住むところ
私たちの世界
そこに住むすべての人々に



Rotary International

1997-98 R.I. Theme

第2560地区——久保田 昭 治
ガバナー——五十嵐 総 一
会 長——細 井 増 雄
会長エレクト——長谷川 有 美
副 会 長——佐 野 勝 栄
幹 事——西 山 徳 厚
副 幹 事——山 浦 日出夫
S A A——高 森 章 仁

例 会 日——毎週水曜日 12:30 ~
例会場及び——三条市旭町2-5-10
事 務 局——三条信用金庫本店内
例 会 場——TEL 35-3311
事 務 局——TEL 35-3477
FAX 32-7095

本日出席会員数	79名中 52名
先々週出席率	80.00%

ヴィジター

三条南より

池田 繁さん

三条北より

本間建雄美さん

先週のメイクアップ

3/4 東京王子へ

渋谷健一さん

3/4 札幌真駒内へ

渡辺勝利さん

3/6 五泉ローターアクトへ

佐藤吉平さん

3/8 桐生赤城チャーターナイトへ

五十嵐総一さん、佐野勝栄さん

3/9 三条南へ

細井増雄さん、古沢富雄さん、

小林九満太さん、熊倉昌平さん、

捧 賢一さん

3/10 三条北へ

丸山行彦さん、橘 直樹さん

会長挨拶

五十嵐総一会長

皆さん今日は、本日は南クラブから池田さん、北クラブから本間さんようこそおいでいただきました。又当クラブの交換学生のネーザン君と、大阪、高槻西クラブからリオングさんようこそおいで下さいました。ネーザン君は来週「卓話」を御願しております。……と言う事は本来ならば交換学生は月一回例会に出席すると言う事になって居るようでございます。ちょっと当クラブはサボッておりました大変失礼致しました。だいぶ日本語が慣れてこれ、日本での日常生活にも溶け込んでおられるとの事でございますので、ぜひ来週「卓話」と言う事で御呼び致しております。

話が違いますが、今ちょうど盛んにパラリンピックが開催されております。日本勢の活躍がひとときは目立っておる様でありますけど、先般長野オリンピックが開催された時に「平和キャンペーン」と言うのがありまして、平和キャンペーンの中にピース、アピール実行委員会によって繰広げられました。

実はまず御話し致したいのは、サラエボに愛の膝掛を送ろうと言う運動がありまして、我々手編業界がサラエボに膝掛を送ると言う事を我々がさせていただきました。募集した所2万枚以上集まりまして、長野に2月20日迄に送らしてもらった訳でございます。サラエボは1984年に

冬期オリンピックが開催された所であり、それから内戦があり、その内戦の為に苦しい状況を強いられ、ピース、アピール実行委員会が長野オリンピックの際に愛の御手伝いを少しさせていただいた訳であります。

最近つづけて青少年の事件が問題となり、起っております。本当に中学生が些細な事である様な事件を起して、我々の中学時代と今の時代の差があるのでしょうか、教育と言われれば一言で終わってしまいますが、その様な青少年問題をどの様に解決すべきか、我々の「ロータリーの心」として何かに表わせないか……と考えております。毎日の様に事件が起こり我々始め先進国の色々な問題が上っ面ではないのか、経済をはじめ、色々な問題が急に膿として出て来ているのではないかと思われ、先進国を洗う心の先進国にすべきではないかと言う事を感じ、ちょうど私の年度の「ロータリーの心」と言う事が基本ではないかと思っております。

先般3月6日に桐生赤城ロータリークラブ認証伝達式がありました。私と佐野幹事と出席してまいりました。そこで感じ取ったのは分割問題がある為に新潟県側の出席が少なく、新潟県第四分区の出席を見ますと三条南クラブ、三条北クラブと当三条クラブしか出てなく、分割問題がもうすでにその様な意識があるのかな……せっかく群馬との2560地区の大きな輪がこの様な問題が出てくるとすぐに

形で現われるのかな……少し淋しく感じてまいりました。その時、ちょうど外川昌子のトークショーがあり非常に盛大に行われた訳で以上報告させていただき挨拶に変えさせていただきます。

幹事報告

佐野勝栄幹事

◎三条市特殊教育研究協議会よりお礼状がとどいております。

◎国際ロータリー第2560地区協議会実行委員会より地区協議会のご案内がとどいております。

とき 5月16日(土)～17日(日)

ところ 新潟テルサ

義務出席者

次年度会長、幹事、クラブ奉仕委員会(A)(B)、会員増強、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕、青少年奉仕、ロータリー財団、米山奨学、ローターアクト 以上ですがよろしくお願い致します。

◎新潟県英語指導助手ミュージカル劇団による「グリース」の講演お礼がとどいております。

◎新津RCより第45回県下ロータリークラブ親睦ゴルフ大会のご案内がとどいております。

とき 5月14日(木)

ところ 新津カントリークラブ

AM8:00～

ニコニコBOX



五十嵐総一さん

素晴らしい青空の群馬、春がおとずれている桐生に桐生赤城RC認証式に出席してまいりました、感動!!

ネーザン君の元気な姿を拝見して。

佐野勝栄さん

3/8(日)桐生赤城RCの認証伝達式に行ってきた。赤城山、谷川連峰がきれいでした。

峯村征夷さん

ホクギン女子バレーボール部はおかげさまで地域リーグから実業団リーグに昇格いたしました。また長野冬季オリンピックでは横山選手がクロスカントリーで日本人選手では最高の成績で活躍いたしました。いずれもご声援ありがとうございました。

高森章仁さん

万里の長城に登って来ました。素晴らしいものでした。

吉井俊介さん

土曜日、日曜日と志賀へスキーに行ってきた。パラリンピックの会場も見て来ました。身障者のスキーヤーも滑っていました。

橘 直樹さん

先週おひな祭りキャンペーンをやり、たくさんの女性の皆様がお来店されました。やはり女性にはやさしさが大切と痛感いたしました。

松谷昊吉さん

庭に出たフキノトウの天プラが今晚の酒のつまみです。

三堀正純さん

本日卓話をさせていただきます。退屈な方はどうぞ昼寝を楽しんで下さい。

渋谷正一さん

三堀さん卓話楽しみにしております。

川瀬国雄さん

三堀さんの卓話を祝って！

近藤雄介さん

久しぶりの例会出席です。

捧 賢一さん

本クラブの出席がしばらく出来なかったの。

内山辰策さん

三堀会員の卓話楽しみにしております。

佐藤 武さん

三堀会員の卓話楽しみにしております。

西山徳厚さん

三堀会員の卓話と栄転に乾杯。

3月11日分 ¥ 16,000

今年度累計 ¥665,000

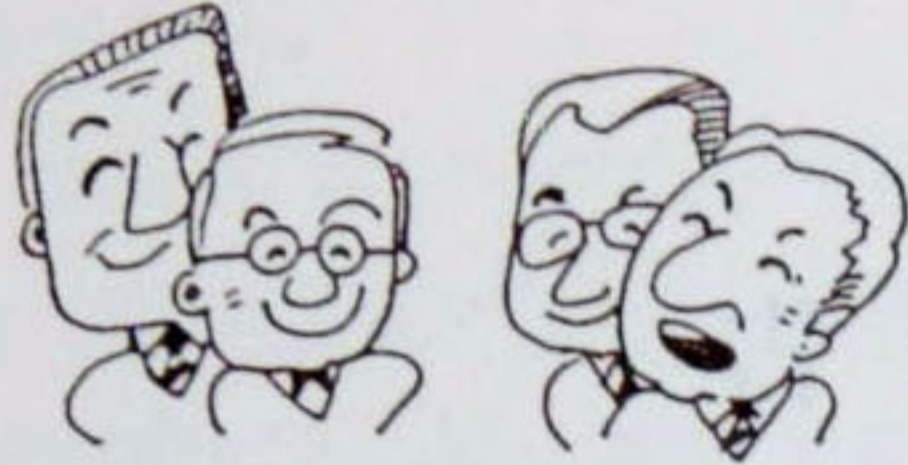


ロータリー財団ボックス

山田富義さん

長女大学に、次女高校に進みます。

3月11日分 ¥15,000



卓話

三堀正純会員



三条ロータリークラブに入れて頂いて早や4年、3回目の卓話になります。ボックスに添え書きしました通り、ご退屈な方は、どうぞ昼寝を楽しんで下さい。

三条へ赴任したのは、平成6年4月です。それまで三条とは全く縁がなかったと思っていましたが、よくよく考えてみましたら、昭和45年に三条市の隣り、下田村へ1年間通った事がありました。

笠堀ダム周辺のカモシカを追い掛けて、野性動物の生態を捉えるドキュメンタリーを制作していたのです。

三条へ参りましてから時折笠堀を訪ねておりますが、あの当時に較べると大部様子が変わったなあと、つくづく思うのです。

笠堀の集落では頻りに熊が出没するようになり、カモシカも里に出て来て畑の作物を食い荒らすようになりました。本来、熊もカモシカも大変臆病な動物で、警戒心が強く、余程の事がない限り、人里に出て来る事はありません。山に何か大きな異変が起きているのではないのでしょうか。彼等の棲息条件が変わった為、危険を冒してまで村里に出て来るようになったとしか考えられないのです。

昭和43年頃でしょうか、本州では亜高山帯にしか棲息しない特別天然記念物ニホンカモシカが、笠堀ダム周辺で数多く見られるようになり、世の注目を浴びるようになりました。

カモシカは牛の仲間で、昔からアオシシ（毛が青色い）とかクラシシ（クラは岩の意味、岩場の多い所に棲息する）と呼ばれていました。牛そのものですから、山里の人々にとって美味しい肉は貴重な蛋白源となり、毛皮は上等な防寒具になる為、乱獲され絶滅寸前の有様でした。従って、その生態については未知の部分が多く、幻の動物とさえ言われていたのです。

世間では珍しいカモシカが、ここでは

身近に見る事が出来る。さすれば、村の観光資源になるのでは……と、地元は大いに沸きました。明治の頃まではカモシカを盛んに食べていた笠堀の人々ですが、積極的な保護にのり出す一方、特別天然記念物ニホンカモシカの棲息地として、「特別地域」の指定を受ける為、関係官庁に働き掛けました。その中心人物が、坂井新伍さん（元下田村助役・故人）と横山小多加さん（元内科開業医・故人）の二人です。

その当時、私は未だ入社してから2、3年の新米ディレクターでしたが、この笠堀の話題に注目しました。めったに見れないカモシカを、行けば必ず見る事が出来る。その生態も判らない部分が多いとなれば、是が非でも映像に促えて克明に記録したいと思ったのです。

上司の了解も得ぬまま、早速現地へ打合わせに入りました。動物の生態を迫るには、四季を通じての取材が必要です。それには地元の協力が無ければ出来ません。山案内をしてもらえるか、重い機材を運んでくれる人はいるか、日当はいくらか、等々、番組の企画書を作る為に必要な事柄について話し合いました。

坂井、横山の両氏をはじめ地元笠堀の皆さんから、全面的に協力するから1年間追っ掛けて見ろと言う好意的なお話を頂いた訳です。こうなれば恐いものなしです。社に戻って上司の許可を得て、予算を獲得し、じっくり取材に入ろうかと胸をふくらませました。

所が、翌日出社してみますと、「三堀！お前は笠堀で何を話して来たんだ!!」と、社長から出しぬけに怒鳴られたのです。実は、昨晚の打合わせ会に、新潟日報三条支局長の遠藤辰也氏が同席していました。翌朝の紙面に「笠堀のカモシカ・BSNも1年間の取材に入る」と、大いに先走った記事が掲載されたのです。朝帰りのまま出社したものですから、私は未だ新聞を読んでいません。「誰れの了解を取ったのだ！一体全体、いくら金が掛かるとかと思ってんだ!!」と社長の罵声を浴びますが、私自身、何の事かさっぱりわからず、只ポカンとしておりましたが、脇から常務が助け船を出してくれました。「ここまで書かれたんじゃ仕方あるまい、いまさら後には引けないし、この際、取材をさせてみたらどうか」と社長を説き伏せてくれたのです。

あの当時は今と違ってビデオカメラなどは無い時代でした。テレビの映像は全て16mm映画です。カメラはアリフレックス16、レンズはアンジェニーのズームで日光の下ではフィルター処理をしなければなりません。カラー撮影となりますと国産のフィルムは未だ生産されていない時代ですから、イーストマン・コダックのネガタイプしか使えなかったのです。これが実に高い、1巻(100フィート=無駄なく撮れば3分間)5,200円もする代物で、ラボの現像代が2,700円、編集用の白黒ラッシュが1,500円で、1巻で1万近くもかかりました。私の月給が4

万もしない頃ですから、いかに高くつか想像して頂けると思います。更に、動物相手の取材で山奥く深く入り込む訳ですから、1回の入山は3泊4日以上かかります。カメラマンや助手の日当、現地での諸経費をみますと、1回につき40~50万はすっとなでまします。社長の懸念も良く判ることなのです。

四季を通じての取材は楽しい思い出しか残っていません。ブナ林での野宿ではユリハズクが「ブッポーソー」と一晩中鳴いていました。野猿の群れに取り囲まれ、多勢に無勢、数時間に亘って身動きがとれない事もありました。

特に印象深かったのは熊狩りです。笠堀の皆さんは先天的に狩猟民族の血筋を引いておられます。沢に雪渓が残る早春。望遠鏡でカモシカを探していた坂井さんがツキノワグマを発見しました。我々の取材は放り投げ、早速トランシーバーで笠堀山荘を呼び出し、ハンターに召集をかけたのです。熊は夜行性ではありませんから、夕方迄には寝ぐらを探し出し夜は必ずそこに泊って朝が来るまで動きません。午前3時、ハンターが揃ってやって来ました。笠堀では「坂東吾妻流鶴翼の陣」と言って、下から勢子が熊を追い上げ、通りぬけるであろう峰の鞍部に射手を数名配置し、沢を一つ隔てた対岸から全体を見渡しながらい指令をとばすと言う、鶴の羽根を広げたような狩猟態勢が組まれます。午前4時、指揮者の合図でいよいよ勢子が動き始めました。大声を

張り上げて熊の居場所をめがけます。指揮者は熊の動きを見ながら、右手、中手、左手の勢子を誘導し、最も腕のいい一番射手の方向へ熊を追い上げるのです。我々もカモシカの撮影は放棄し、「熊狩り」の取材に急遽変更して、カメラを回し始めました。取材班は地元の意向に従わざるを得ないのです。この日は熊の逃げ足が速くカメラで捉えきれず、追いつけた熊も峰の射手から遠く離れた尾根に逃げ込んだらしく、取材も猟も失敗に終わりました。

平日でありながら「熊が出たっや!!」の一言で、十数名もの人々が集まり、3時間余りで狩猟態勢を整えてしまうのには驚かされます。

カモシカの撮影は勿論地上ですから普通のカメラで行いますが、夏の取材で水中カメラの手配を申請した事がありました。カモシカが棲息する環境は手つかずの豊かな大自然です。湖も川もあります。巨大イワナやハヤの産卵シーンを捉える事によって、自然の豊かさを描くことが出来ると思ったからです。例によって「山の取材に何んで水中カメラが必要なんだ!!」と社長に怒鳴られましたが、趣旨を説明して何とか了解してもらえました。社長の文句も良く判るのです。実は、その当時水中カメラの機材は我社になく、高い金を払って東京の業者に依頼しなければならなかったのです。

笠堀ダムの源流は素晴らしいものでした。産卵期を迎えたハヤは横腹に真赤な

縞模様が現われます。赤腹の大群はダム湖を遡って源流に向います。源流にたどり着いたハヤは川底の小石の間に頭から突っ込んで、小石の奥側にびっしりと卵を付着させます。源流の浅瀬は真赤なハヤで盛り上って見えます。水中・陸上の両面からの取材が終ると、いよいよハヤのつかみ取りです。まとめて5、6匹は手づかみにでき、次から次へと岸にほうり投げます。いくら捕っても捕りきれぬものでありません。結局、その日は玉ねぎを入れる大型の網袋で3つの漁獲。翌日は取材を中止して、笠堀山荘でハヤの甘露煮作りに精を出した次第です。

又、夏の源流は水が濁れます。所々にある滝壺の中に、流れに取り残された大きなイワナが潜んでいます。こうした神秘的とも言えるイワナの姿を水中カメラでしっかりと捉らえる事が出来ました。洗濯桶くらいの壺に1尺以上のイワナが5、6匹も重なってる事もありますし、大きな滝壺では3尺以上もある塩びきみみたいなイワナも捕れました。刺身に化けて酒の肴になったのは言うまでもありません。今日、このような行為は許されませんし、こんな風にハヤやイワナを獲る事も出来なくなりました。

昨年の夏、30年振りでロンデの沢に入りました。変わり果てた源流の様子に只々驚くばかりで、荒れた川面に当時を忍ぶようすもありません。森の荒廃が川の姿を変えてしまったのです。

下田の大自然。四季のうつろいに何の

変化も異状も無いように見受けられますが、実は、確実に異変は起きているのです。

皆さん、今、新潟日報の朝刊に「震える野性」と言う特集が連載されています。3月10日号を読みますと、オオルリシジミの話題が載っています。私は生物学者ではありませんので詳しいところは解りませんが、少年時代から昆虫に興味を持っていたものですから、ちょっとお話ししますと、オオルリシジミとは蝶の名前なのです。この蝶はシジミチョウ科のゼフィルスの仲間、非常に小型な蝶です。太陽の光を受けると瑠璃色に美しく輝く大変珍しい蝶で、ごく限られた地域にしか生息していません。記事によれば、県内では陸上自衛隊の関山演習場内に比較的多く生息しているとあります。それは食草であるマメ科の植物クララが、演習地である為に伐採をまぬがれていたからであり、実弾が飛び交う演習場に入って採集する事が出来なかったからです。所が近年、立入禁止を破って入り込む昆虫マニアが増え絶滅寸前の危機にさらされているのです。

レッドデータブックを御存知でしょうか。環境庁が編集しているもので無脊椎動物編と脊椎動物編の2冊が刊行されています。レッドデータブックは保護しなければ絶滅してしまう動物達を、5つのカテゴリーに分類して紹介しています。

I 絶滅種——我国ではすでに絶滅したと考えられる種または亜種。

II 絶滅危惧種——絶滅の危機に瀕している種または亜種。(もしも現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用するならば、その存続が困難なもの)

III 危急種——絶滅の危険が増大している種または亜種。(もしも、現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用するならば、近い将来「絶滅危惧種」のランクに移行する事が確実にと考えられる)

IV 希少種——存続基盤が脆弱な種または亜種。現在「絶滅危惧種」にも「危急種」にも該当しないが、生息条件の変化によって容易に上位のランクに移行するような要素(脆弱性)を有するもの。

V 地域固体群——保護に留意すべき地域固体群。地域的に孤立している固体群で、絶滅の恐れがあるもの。

こんな風に5つのカテゴリーに分けられています。先き程のオオルリシジミは「希少種」にランクされ本州ではほとんど絶滅に近い蝶なのです。

ちょっとこの標本をご覧下さい。この蝶はギフチョウです。アゲハチョウの仲間「春の女神」と呼ばれるほど可憐な蝶です。活発に飛びまわるのではなく、春のそよ風に乗ってフンワリフンワリと、舞うようにしてやって来ます。明治の初

期、岐阜県で初めて採集され学名が登録され、ギフチョウ(和名)と名付けられました。氷河期からの生き残りと言われ、食草はカンアオイの葉です。

カンアオイはアオイですから、その葉は徳川の家紋「葵」と全く同じ形です。繁殖力が非常に弱く、種子はめったに発芽しませんし、1年間で1株につき僅か1枚の葉しか成長させることが出来ない原始的な植物です。

県内では弥彦・角田山周辺や小木ノ城など、さほど高くない低山丘陵地帯の雑木林の下層植物として群生していました。しかし、近年のゴルフ場開発や宅地造成の影響で、カンアオイは非常に少なくなりました。従って、ギフチョウの姿も見られなくなった訳です。

皆さん、すでにお亡くなりになりましたが、元三条RCのメンバーで歯科医をしておられた松川先生をよく御存知の事と思います。「昆虫学者」と呼ばれていた方ですが、この松川先生の影響を受け、大変立派な活動を続けている人物がいます。下田村で左宮業を営んでいる石月英二さんがその人です。八木鼻に向って参りますと、「山野草」「ひめさゆり」の小さな売店がありますが、そこの御主人でもあります。ヒメサユリの乱獲に心を痛めた彼は、自らヒメサユリを育て、球根を増やしては人々に安く譲っています。山を荒らさないで欲しいと言う純粋な願いからでした。

皆さんは昆虫マニアではないでしょう

から、本当の事を申しますと、危急種にランクされるギフチョウは下田の里山にも生息しています。しかし、ご多分に漏れずめっきり少なくなりました。人工的に繁殖させ成虫(蝶)になったら自然界に戻してやろうと試みたのが松川先生です。そして、3日おきに先生のもとへ食草のカンアオイを山から運び届けた人物が石月さんと言う訳です。二人三脚の繁殖保護活動は十数年にも及びました。その甲斐あってか、口こみで情報を知り下田に入り込む採集マニアは減ってはいませんが、ギフチョウそのものは絶滅に至っていません。石月さんは特にカンアオイの保護に力を注ぎました。食草こそ種が存続する原点だからです。群生地を明したり他言したりはしません。私にさえ教えてはくれないのです。誰にも判らない雑木林で、密に繁殖栽培を試みているそうです。

松川先生が亡くなられてからも、その遺志を引き継ぎ、今も独りで地道な保護活動を続けておられます。

所で、皆さんは日本の国蝶をご存知ですか。そうです、オオムラサキと言う蝶ですね。この標本は数年前、田上の護摩堂山で採集したオオムラサキの♂です。4、5年前迄は、田上から下田にかけての里山で良く見かけたものですが、今では、めっきり少なくなり珍しい蝶の仲間入りをしています。オオムラサキの食草はエノキです。村里の神社の境内や、屋敷の傍らによく植えられていた樹木です。

用材としての価値はなく、薪にしかならぬものから、今時エノキを植える人はいません。従ってオオムラサキも、激減しているのです。

オオムラサキは、さすがに国蝶だけあって、思わず惚れ惚れする事があります。タテハチョウ科の比較的大型の蝶で、♀は少々地味ですが、♂は素晴らしい雄姿を見せてくれます。昼間はクヌギの樹液を吸ったり、葉の奥側で翼を休めていますが、午後3時頃になると活発に飛びまわります。縄張り意識が強く、エノキの梢を盛んに施回し、交尾相手の♀を引きつけます。日の光を受けるとコバルトブルーに美しく輝きます。自分の縄張りを侵すものは、小鳥さえ追撃します。以前、オオムラサキと燕の空中戦を目の当たりにしたことがあります。デルタ翼のジェット戦闘機の如く、羽根を鋭角に折りたたみ、マッハの勢いで燕を蹴散らしてしまいました。実に惚れ惚れする蝶です。

石月さんは、このオオムラサキの繁殖も考えています。ギフチョウと同じ方法で、先づ食草のエノキを確保し、越冬幼虫を採集して飼育し、天敵であるキイロスズメバチの寄生から幼虫を守り、羽化したら里山に放してやる、と言うものです。

手はじめに、この春から石月さんはエノキの植樹を始めています。そして近い将来、下田村を「国蝶オオムラサキの飛び交う里」にしようと、大きな夢をふくらませています。

決して派手な保護活動ではありませんし、世間の注目を集めてはいませんが、石月さんの独りぼっちの活動は、とても崇高なものとして私には受けとめられるのです。

最後になりますが、私はこの4月1日付で本社に戻る事になりました。平成6年に仲間入りさせて頂いてから4年間、メンバーの皆様には公私共に大変お世話になりました。職務を全うする事ができ、充実した日々を過ごせましたのも、皆様の心温まる御交誼の賜物と、心から感謝申し上げます。物を作る町は何故か心がはずみます。あの有名なブランドはここで作られていたのか、あの便利な道具もメイドイン三条、等々、驚きと感動の連続でした。私自身、鍛冶道場へ通って、名匠の手ほどきを受けながら、1年がかりで小刀を鍛造しました。世界で1本しかない私だけのオリジナルです。三条の皆さんは良い方ばかりです。お世話になりました三条の方々に感謝申し上げ、楽しい思い出を胸に去ろうと思います。

時代は逆風、どちらを向いても良い話を耳にしません。皆々様の御繁栄と御健勝を御祈念申し上げ、お礼の言葉に代えさせていただきます。皆さんどうも有難う御座いました。

編集後記

三堀さんの卓話自然の再発見を身近かな下田の里で再発見、春もすぐそこです。自然を大切に、大いに満喫し自然を愛しましょう。 K

例会案内

三条RC	3月25日例会	卓話	渡辺喜彦会員
	4月1日例会	卓話	

メイクアップをどうぞ

三条南RC	3月23日例会	会員卓話	
	3月30日例会	会員卓話	
三条北RC	3月24日例会	職場例会	於 柄長
	3月31日例会	外部卓話	
加茂RC	3月26日例会	夜の例会	「ワインの夕べ」
	4月2日例会	会員卓話	
燕RC	3月26日例会	夜の例会	
	4月2日例会	会員卓話	
見附RC	3月26日例会	夜の例会	於 ホテル「つるや」
	4月2日例会	会員卓話	

